

JR東海労なごや

2009年9月9日 No. 782号
JR東海労名古屋地方本部
発行者：丹羽成生
編集者：堀部肇

地本申し入れシリーズ 6

複雑化で長引く出発点呼に??

最近どこの運転職場でも、出発点呼の時間が長くなっています。掲示類の手帳への記入強制と点呼での報告、一口試問、基本動作の実技強制、KY等を行うことにより、場合によっては5分以上も出発点呼が長引き、点呼待ちの長蛇の列ができ、出発点呼を受ける時刻が遅れる等が発生しています。さらに点呼の終了が遅れることにより、乗り継ぎや出区点検開始までの時間が短くなり余裕がなくなります。人によって徒歩時間も違い、雨が降っていれば当然余分な時間もかかります。息を切らして運転台に乗ることになり、ミス・事故を誘発する非常に危険な作業状態であります。

点呼は評価する場ではなく乗務に対する伝達の場

そもそも、出発点呼は個人評価する場ではなく、乗務に必要な事項を伝達する場であり、今日も頑張るぞの気持ちを持つ場であると考えます。また、基本動作の実技、掲示の手帳への記載・報告は特に規程では定められていません。定められたこと以上を行うので、余分に時間がかかっています。結果、私たちは知らず知らずのうちに早めに職場に行き、点呼のために自分の時間で準備を始めています。誰もが慌てて、焦って仕事をしたくないからサービス労働を行っています。

掲示物を書き写すことなどが本当に点呼に必要なならば、会社は準備時間を10分増やすべきです。

私たちは、この問題を解決するために以下のように申し入れを行いました。

神領運輸区では出発点呼で細かな指摘と指導事項が多岐にわたり点呼時間が長引いている。やるが多すぎて、管理者が点呼を忘れる事象も発生している。また、出区、乗り継ぎまでの時間が僅少になり安全運転に支障をきたしている。点呼は簡素化し運転に必要な事項だけを確認し時間内に終わるようにすること。

JR東海労名古屋地本申第1号より

業務委員会では

組合：出発点呼での一口試問は必要ない。乗務に必要な事柄を確認すればよい。

会社：一口試問は事故防止である。

組合：一口試問など乗務に必要な、やり取りが余裕のない作業を行わせている。

会社は

事故防止と言いながら、会社が余裕をなくし、不安全な作業を作り出している。